

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】


授業者氏名	山岸 史弥	学校名	大阪市立 新森小路小学校
教科(科目)・領域	国語・総合	対象学年(人数)	6年 1組(26名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年11月7日(金) 全5時間(本時は2時間目)		


## 【実践概要】




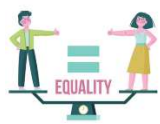

1. 単元名(活動名): 解決?! ジェンダー探偵団! ~「自分らしさ」が大切にされる社会を目指して~					
2. 実践する教科・領域 ・国語科「発信しよう、私たちのSDGs」(3時間) ・総合的な学習(2時間)	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) ・自分たちの身近にあるジェンダーバイアスに気づき、そのバイアスの影響や、それが維持される背景などについて理解することができる。(総合) ・お互いのちがいを認め合い、共生社会に向けて自分たちに何ができるか主体的に考え、行動することができる。(総合)					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	・身近な社会のジェンダーバイアスに気づき、そのバイアスの影響や、それが維持される背景などについて理解している。(国語)			
	②思考・判断・表現	・ジェンダーに関する情報や、友だちの意見を多面的・多角的に捉え、共生社会のために必要なことは何か考えている。(総合)			
	③主体的に学習に取り組む態度	・お互いのちがいを認め合い、「自分らしく」生きることのできる社会を作っていくために自分たちにできることを考え発信している。(総合・国語)			
6. 単元設定の理由・単元の意義 【単元設定の理由あるいは単元の意義】【児童/生徒観】 日傘をさして登校したり日焼け止めを塗っていたりする男子児童に対して、同性から「女みたい」と揶揄した声がある。体育の時間、「男子は教室で着替えて、女子は別の部屋で着替える。何でいつも女子ばかり移動しないといけなの?」女子児童からそんな不満の声が聞こえたこともあった。児童同士だけではなく、教員の側にも、日常の学校生活の中に潜む、「男だから」「女だから」といった決めつけや無意識の思い込み・固定観念がまだまだ根強く残っているように感じる。本学級の実態として、一部の男子児童・女子児童の間で一緒に遊んだり、活動したりすることを極度に嫌がる・恥ずかしがる(周りからからかわれることを恐れる)雰囲気がある。思春期という発達段階もあるのだろうが、どこか男子と女子の間にある「どうせ理解し合えない」というような見えない壁があるようだ。お互いの性差・ちがいを認め合い、協力し合える学級集団を形成していくためにも、本実践による児童の変容に期待したい。 【教材観】 国語科「発信しよう、私たちのSDGs」では、17のSDGsの目標の中から、自分の興味関心の高いものを選び、それについて調べ発信するという単元の構成になっている。前単元で、マイクロプラスチックによる海洋汚染について学習しているため、児童のSDGsに対する興味関心は十分高まっていることが予想される。ここでは、特に目標の5「ジェンダー平等」について取り上げ、世界の課題や日本の現状についてまず知ることから始める。 【指導観】 単元の前半では、「男らしさ」「女らしさ」から生まれる抑圧や、「男」「女」に二分することから生まれる偏見や差別をつくりだしている仕組みについて知り、児童に「もやもや」を生み出す。参加型のワーク(自己や周りの友だちと対話)を通して、自分の中にある無意識の偏見や思い込みに気づき、問題を自分事として捉えられるようにする。 後半では、多様な持ち味「自分らしさ」が尊重される社会をつくるために、どう行動していくか自分事で考え、新聞					

への投書という形で表現・行動化できるようにしたい。単元全体を通して、自分の中の思いや考えがどのように変容していったのか、児童の振り返りを比較分析する。

7. 単元計画(全5時間) 国語・総合的な学習			
時間	ねらい	学習活動	資料など
1 (国語)	・SDGs 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」について、世界と日本の現状について知る。	・国語科「発信しよう、私たちの SDGs」の学習の流れを知る。 ・SDGs の目標達成度の中で特に低い目標の5(ジェンダー平等)を取り上げる。 ・世界と日本の現状について知る。	・ジェンダーギャップ指数2025
2 (総合) 本時	・自分の中にある無意識のバイアスに気づく。	・自分の体験を振り返りながら、社会にある「男だから」「女だから」といった思い込みや決めつけには何があるか考える。 ・社会の中で形成されてきたジェンダーに関する偏見や差別について知り、ジェンダー平等を妨げるものは何か考える。	・「ジェンダー視点で教育を見直すヒント集」
3 (総合)	・ジェンダーに関する「ちがいをあっても良い「ちがいをあっても良い」「ちがいをあっても良い」か、あってはいけない「ちがいをあっても良い」か、考える。	・身近にある例を取り上げ、全体で意見を交流する。 「電車の女性専用車はあるが男性専用車はない。」 「日本では男性の給料の平均を100とすると、女性の平均は60である。」等。 ・ワークを通して考えたことや感じたことを共有する。	DEAR 開発教育協会 ・「行動力をはぐくむ教室-もちあじワークで多様な未来を-」 ・「ジェンダー視点で教育を見直すヒント集」
4 (国語)	・問題を自分事として捉え、ジェンダー平等を実現するために自分たちに何ができるか考える。	・身近にあるジェンダーに関するマイクロアグレッションや新聞の投書を取り上げ、お互いの考えを交流する。 ・学んだことを振り返り、自分の思いや考えを意見文の形にしていく。	・朝日新聞投書など
5 (国語)	・自分たちにできることは何か考え、行動に移す。	・お互いの意見文を読み合ったり、色々な大人(教職員)にも見てもらったりして、アドバイス等を活かすことができるようにする。	

8. 本時の展開(概略)			
本時のねらい:自分たちの身近にあるアンコンシャス・バイアスに気づき、その問題性を捉えることができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>1. <b>前時の振り返り等を共有する。</b> T 「前回の授業では、SDGsの5番の目標である『ジェンダー平等』について学びました。いくつかみなさんの振り返りを読みます。」 「日本はジェンダー平等に課題があることが分かったんだよね。」</p> <p>2. <b>本時の課題を確認する。</b></p>	<p>・前時の感想等を共有する。</p> <p>2時間目 ジェンダー平等を さまたげているものは何だろう?</p> 	<p>・児童の振り返り</p> <p>・スライド</p> <p>・ワークシート (めあての記入)</p>
展開 (30分)	<p>ジェンダー平等をさまたげているものは何だろう?</p> <p>3. 「男らしさ」「女らしさ」について考える。 T 「ジェンダー平等が実現されないのは何でだと思いますか?」 C 「前回の学習では、政治とか経済の部分で女性の数が圧倒的に少なかった。」</p>	<p>・本時の課題に対するそれぞれの予想、考えを簡単に板書し、学習の見通しがもてるようにする。</p>	<p>・スライド 9～AC ジャパン 「聞こえてきた声」</p>

<p>C 「もっと女性が活躍することが必要かも。」</p> <p>T 「まず、みんなに見てもらいたい動画があります。」</p> <p>T 「聞こえてきた声は、男性？女性？どちらでしたか？」</p> <p>C 「これは、男性の声がした！」</p> <p>「赤ちゃんの世話とか、ご飯とかは女性のイメージがする。」</p> <p>T 「今までの経験もあるから人によって様々だと思うけれど、男はこうだとか女はこうみたいな自分の中にある思い込みってあるよね。」</p> <p>T 「男のイメージ、女のイメージってあると思うのですが、ここにはどんな言葉が入ると思いますか？」</p> <p>C 「強い・弱い」 C 「仕事・家庭？」</p> <p>T 「グループでたくさん意見を出し合ってみましょう。」</p> <p>T 「男だから、男のくせに、女だから、女のくせに、といった言葉をこれまで聞いたり、言われたりした人もいるんじゃないかな。」</p> <p>C 「男のくせに泣くとか…」</p> <p>C 「女なんだから、もっと大人しくしなさいとか…」</p> <p>T 「私たちが無意識のうちに偏ったものの見方をするのをアンコンシャス・バイアスといいます。偏見とか、思い込みとかともいうね。」</p> <p><b>4. 性別による役割分担・職業への偏見や思い込みについて意見を交流する。</b></p> <p>T 「たくさんの意見が出てきました。まだまだ、ジェンダーに関する偏見や思い込みってたくさんありそうだね。」</p> <p>T 「この掃除用具を見たことありますか？ 多分皆さんの家でも使っている所が多いと思います。どちらが〈昔〉でどちらが〈今〉のだと思いますか？」</p> <p>T 「どうしてデザインが変わったのでしょうか？」</p> <p>C 「掃除をするのは女の人みたいな決めつけがあるから？」</p> <p>T 「みんなの中で、役割や職業(仕事)に男らしさや、女らしさはありますか？」</p> <p>C 「校長先生って男の人が多くない？」</p> <p>C 「保育園は女の人が多かった。園長先生も女性だったような…」</p> <p>C 「運転系の仕事って女の方は少ないかも。」</p> <p>C 「総理大臣は今までずっと男やった！」</p> <p>T 「実際に、校長先生は男性が多いんです。でも学校の先生全体で見ると女性の方が1.5倍くらい多い。みんなから出てきた役割や職業は、別に性別に関わらずになれる職業だけど、何でこんなにちがいや差が生まれるんだろう</p>	<p>聞こえてきた「声」は、男性？女性？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>AC ジャパン広告 2023</p> <p>「聞こえてきた声」より</p> </div> <p>・多様な意見を認めるようにする。 家庭環境やこれまでの経験などにも左右されることを伝える。</p> <p><b>男は〇〇/女は〇〇</b> どんな言葉が入ると思いますか？</p> <p>男だから      女だから 男のくせに    女のくせに</p> <p>・最初に自分の考えを書き、その後、ペアやグループで交流できるようにする。</p> <p>・少し時間をとり、話し合ったことを全体で共有する。</p> <p><b>アンコンシャス・バイアス</b></p> <p>無意識のうちに 偏ったものの見方をする</p>  <p>偏見・思い込み・先入観…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>床用掃除シート (昔)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>床用掃除シート (今)</p> </div> </div> <p>どちらが〈昔〉で どちらが〈今〉だと思いますか？</p> <p>どうして 変わったのでしょうか？</p> <p>・スライドを見せながら、児童の意見を取り上げていくようにする。</p> <p>・意見が出にくければ、こちらから学校の管理職・教員の男女比などの資料を提示する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校の先生</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">銀行員</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バス運転手</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">警察官</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漁師</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花屋</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">警察官</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">看護師</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パイロット</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">医者</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大工</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パティシエ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">美容師</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">保育園の先生</div> </div> <p>職業や役割に「男らしさ」「女らしさ」はある？</p>	<p>・スライド 10～</p> <p>・ワークシート (自分の考えや体験などから)</p> <p>・スライド 12～</p> <p>・新森小路小学校の歴代校長先生の写真など</p> <p>・スライド 13～</p>
---	---	--

	<p>ね？」</p> <p>C 「子育てとかもあって、なりやすい・なりにくいがあるのかも。」</p> <p>C 「男性の方がふさわしい、とか女性には難しいみたいな古い考えがあったんじゃない？」</p> <p>T 「昔と今で、職業に関する捉え方もずいぶんと変わってきました。このような職業は今では男性も増えてきていますよね。」</p> <p>T 「これは、みんなが良く知っている映画の広告です。現地の広告と比べると、どう感じますか？」</p> <p>C 「海外の方が強そう」「かっこいい！」</p> <p>C 「日本の方は可愛い。」</p> <p>T 「もしかしたら、こんな風に女の子は可愛くないといけない、大人しくないといけないみたいなものを知らず知らずに刷り込まれているのかもしれないね。」</p> <p><b>5. 音声ガイドの「声」について、ジェンダー平等の観点から考える。</b></p> <p>T 「聞こえてくるのは男性の声でしょうか？女性の声でしょうか？」</p> <p>C 「全部女性ばかりだ！」</p> <p>T 「どうして女性の声ばかりだと思いますか？」</p> <p>C 「お世話するイメージ？」</p> <p>C 「聞こえやすいから？」</p> <p>C 「男性の声だときつく聞こえるから？」</p> <p>T 「ジェンダー平等という視点で見るとどうでしょうか？」</p> <p>C 「愛想がよいのが女性とか、お世話は女性がするものとかいった偏見につながるかもしれない。」</p> <p>C 「男性の声も選べるといえ、最初から女性の声っていうのはどうかなあ。」</p> <p>T 「男の声でもなく女の声でもない、中性的な声として、Q というものが開発されたようです。ちょっと聞いてみましょう。」</p>	<p>昔</p>  <p>今</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ディズニー映画 現地版と日本語吹き替え版 を提示</p> </div> <p>• どうして女性の声ばかりになるのか、そこに問題性があるのか、今までの学習の流れをふまえて、考え意見を交流できるようにする。</p>  <p>日常生活のこんな所でも…</p> <p><b>AIアシスタント</b></p> <p>どうして女性の声ばかり？ これって、どう思いますか？</p> <p>2019年 ユネスコによる指摘</p> <p>「女性は愛想が良く従順で、いつも人を助けて喜ばせたいと思っている」という概念を固定させる。</p> <p>• AIアシスタントに関しては、設定で声を選べる点も補足する。 • 意見交流の後、ユネスコによる指摘を提示する。</p>	<p>• スライド 17～</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p><b>6. 課題に対する自分の思いや考えを書き、全体で共有する。</b></p> <p>T 「では、今日の学習で分かったことや、考えたこと感じたことを書きましょう。また、ジェンダー平等を妨げているものは何なのか自分の意見も書きましょう。」</p> <p>C 「決めつけや、偏見がまだまだある。」</p> <p>C 「女性はこうあるべき、みたいなものが世の中</p>	<p>• 多様な意見を認める。振り返りの時間をしっかりと確保できるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ふりかえり</span></p>  <p>①今日の学習で ・分かったこと ・考えたこと ・感じたことは何ですか？</p> <p>②ジェンダー平等が実現しないのはどうしてだと思いますか？</p> 	<p>• ワークシート (振り返り)</p>

	にはあって、そんな意識を無くしていかないとだめなんじゃないかな。」		
--	-----------------------------------	--	--

9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通して、ジェンダー平等を妨げるものは何か自分の考えを持つとともに、アンコンシャス・バイアスについても理解している。(行動観察・振り返り)</li> </ul>
------------------------	---

10. 学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分事として捉えられるような学習課題(問い)の設定</li> <li>振り返りによる自己内対話と変容</li> <li>対話的な活動(他者との対話を通して新たな気づきを得る活動)</li> </ul> <p>以上3点を学習方法として、意識して授業のデザインを行った。</p>
-------------------	--

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修(国際理解教育)として、周知する。</li> <li>大阪市教育研究会国際理解教育部内での公開実践として位置づける。</li> </ul>
----------------------------	--

### 【自己評価】

12. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェンダー平等に関する、情報収集。児童が「気づき」を得られる教材を用意したり、主体的に学びを深めていけるような学習課題を提示したりすることに留意した。</li> <li>振り返りや成果物(投書)を書くことに対するモチベーションの差が、児童の興味関心や学力の差とつながっており、一部の児童では十分な学びの成果を得ることができなかった。</li> </ul>
-----------	--

13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女のイメージを問う活動に時間を割きすぎてしまい、性別による役割分担・職業への偏見や思い込みについての部分で十分に時間が取れなかった。様々な情報に合わせ「気づき」を得ることが本時の目標であったが、2時間に分け、もう少し丁寧に扱っても良かったのかもしれない。</li> <li>ジェンダー平等を取り上げるにあたって、単元学習の中に、LGBTQ など多様な性についての学びをしっかりと位置付けることも必要であった。多様な性については、児童の興味関心は高く、学習中に何度も児童から質問があった。その都度、指導者から説明することはあったが、簡易なもので済ませてしまっていることが多かった。</li> <li>LGBTQ など教室の中に当事者がいる可能性についても十分考えておく必要がある。教室の中に存在する左利きの人数ぐらい、LGBTQ の人も当たり前のように存在するのだということを児童には伝えた。</li> </ul>
---------	--

14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元は、国語科と総合的な学習の教科横断で行った。国語科「発信しよう、私たちの SDGs」では、単元の最後に自分たちの学びを「発信する」という活動がある。国際理解教育が目指す、「気づき」から「行動」へつなげるという展開に持ち込みやすかった。特に、「新聞の投書」と成果物を限定したことで、どの児童も自分の思いや考えを「書く」ことにこだわることができた。</li> <li>SDGsの17の目標を児童が個々に調べるのではなく、こちらが「ジェンダー平等」に絞り、課題提示したことで全体での学びが深まった。(本単元は調べ学習が主で、児童に任せた学習になりがちである。教師主導で進めたことで、単元全体を通した児童の知識理解、思考判断の変容が感じられた。)</li> </ul>
------------	--

15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)	<p>(本時の振り返りより) 第2時</p> <p>ジェンダー平等を妨げているものは何だと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔からの固定観念のせいで、今でもみんな女性はこう男性はこうというイメージが結構残っている。(M・S)</li> <li>アンコンシャス・バイアスという言葉を知った。決めつけがジェンダー平等を妨げている。(I・Y)</li> <li>日本の古い頭でっかちな考えのせいで今問題にぶつかっているのが腹立たしいと思った。</li> <li>男らしさや女らしさが偏見やイメージで決めつけられていて、平等を妨げていると感じた。(M・R)</li> <li>男の特徴があって女の特徴があり、それをいかしている結果だと思うので仕方がないと思った。当たり前になっていることなので変えることは難しいのではないかと思う。(K・A)</li> </ul>
---------------------------------	--

(新聞の投書)単元全体を通した成果物 第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女にとらわれず好きなように</li> </ul> <p>「人」のイラストを検索すると、男の子は青とか緑、黒にズボン。女の子も赤やピンク、紫にスカートを使ったイラストが出てくる。でも実際には、男の子がピンクの服を着ていることもあるし、女の子が緑の服を着ていることもある。男女の固定観念にとらわれずに自分が好きなように色やファッションを決めることが大切だと感じた。ま</p>
------------------------	---

だまだ世間では、男の子はこれだ、女の子はこれだという決めつけや偏見が多いと思った。そもそも性別とかいう概念をなくしたら、ジェンダーとか気にせずにごまかせるのではないだろうか？LGBTQもない。男女とか性別とかいう概念をなくそう。自分らしさを受け入れられる社会になるように私は私にできることをしていきたい。男女にとらわれず好きなように生きられる社会に。(I・Y)

- ・ジェンダー平等を妨げるものとは

ジェンダー平等を妨げているものは、男女それぞれの「イメージ」だと思う。

例えば、男は、青や黒などの「イメージ」高いが女は赤やピンクなどの「イメージ」がある。他にも男は短髪、女は、長髪や男は仕事をして、女は家で家事をする等の「イメージ」が今は「当たり前」と認識されているからこのような男女差別が起こるのではないだろうか。つまり、ジェンダー平等を達成するにはこの「当たり前」をなくしていく必要があるだろう。そのためには、自分らしさをもっと大切に。そして相手の立場になって考えることが、大事なのではないのだろうか。(M・S)

- ・決めつけ・押しつけ なくてもいいんじゃない？

女の子はピンクや赤・服装は可愛いらしい服やスカート、男の子は青や緑・服装はカッコいい服やズボン。そんなイメージを持っていませんか？女の子だから行儀よく、男の子だから泣かない。その考えはもう古いのではないのか。今は多様性の時代になってきている。そういう男女の決めつけや押しつけはなくていいんじゃないの？と私は思う。日常の中にもたくさん決めつけがあると思う。女の子が男の子らしい遊びや髪型、服装をしていても良いと思う。逆に、男の子が女の子らしい遊びや髪型、服装をしていても良いと思うし、自分のことは他人に振り回されず自分らしさをだせばいい。女の子は〇〇、男の子は〇〇というイメージや偏見をなくしていけば嫌な気持ちになる人も少なくなると思う。そのイメージや偏見をなくするためにはどうすればいいのか。答えはまだ出ていないけれど、これからも考え続けていきたい。(M・R)

- ・僕が言いたいのは、決めつけることはだめということです。例えば、青色は男子、ピンク色は女子、サッカーは男子、女子はあやとりなどの勝手な決めつけだと思います。他人に決められないで自分の好きなことをしたらいいと思います。今日から守ろうと思った。(K・A)

#### 16. 授業者による自由記述

授業前と授業後の振り返りを比較すると、単元の最初から多くの児童が高い興味関心を持って学習に取り組んでいることが分かる。「男らしさ」や「女らしさ」といった、自分たちにとっても身近なテーマを学習課題として設定したことで、自らの知識やこれまでの見聞等をもとに、「自分事」で学習課題に迫っていくことができたのではないかと考える。単元当初、一部の児童には「仕方ない」、「自分たちにできることはあるのか」、といった諦めや無関心な感想もあった。しかし、学習を進めていく中で、「やはり偏見や差別はいけなない」、「自分は、気をつけたい」といったような気持ちの変化も見られた。

単元の1～2時でジェンダー平等に関する課題について、十分な「気づき」を得た児童は、その後の学習でも、自分たちの思いや考えをしっかりと巡らせ、投書という形で「行動」に移すことができた。また、児童同士でそれぞれの投書を読み合う時間を設け、お互いの学びをさらに深めることもできた。「これって、おかしくない？」、「それは、決めつけだよ」、授業後に、教室でそんな声が聞こえてくることが増えた。自分たちの身の回りの生活や、社会に対する関心、気づきのアンテナが、より高く張り巡らされるようになったと感じている。

#### 【参考資料】

- ・「ジェンダー視点で教育を見直すヒント集」DEAR 開発教育協会
- ・「行動力をはぐくむ教室-もちあじワークで多様な未来を-」ワークシート
- ・ジェンダーに関する朝日新聞投書(声)より抜粋
- ・<https://youtube.com/watch?v=rN2ZCPTJPjA&feature=shared>
- 動画「あたりまえ」って何？「なぜ男子ばかり怒られるの？」【性別による無意識の思い込み】
- ・AC ジャパン広告2023「聞こえてきた声」
- <https://www.youtube.com/watch?v=sE2j2eLaBQ8>